



Bell Friend

鈴鹿短期大学 鈴友会会報 No. 5
平成 27 年 1 月 1 日発行



ページ紹介



○ご挨拶	2
○鈴鹿短期大学の近況	3
○活躍する卒業生	4
○鈴友会・滋賀県支部の総会報告	6
・事業及び会計報告	7
・新役員の紹介	7
○卒業生の近況	8



会長

増田 文子
(昭和 44 年度卒業)

鈴友会の皆様、お元気ですか。私達の会報誌 Bell Friend 5 号が出来上がりました。2 年周期で発行しておりますが、この間、皆さまにとって、どんな日々でいらっしゃったのでしょうか。いろいろなことを、思い起こされることでしょうか。私としては、開口一番、皆様に「ありがとうございました」と、お礼を申し上げたい気分です。それはなぜか。総会に出席して下さった、若い後輩の姿です。友に、そして、恩師に会いたい、報告したいという、はやる気持ちを抑え嬉々として集った顔、顔。そのあらわれが茶話会の賑やかさ。学生時代とは異なり、恵まれた環境の中での日々でないことは確かだと思います。誰しも経験することですが、やはり厳しいものがあると思います。それを自分なりにクリアーしている姿、歩みを進めている姿。すくすくと若芽が育まれている、そんな力強さを感じました。この思いは、私のみならず、草創期に卒業され、今回、出席して下さった方々に、確実なる手ごたえとして、感じられたことと思います。そして、その若さをいただいて、学校の良さを、自分たちの学生時代を思い起こされたのは、必定だったと思います。アンケートには、次回総会にも出席したいとの希望も、あまた記入されていました。これこそ連綿と続く歴史の継続だと思います。今回の会報誌では、各地、各分野で活躍する、同窓生の姿を、紹介させていただきました。本当に力強いかがりです。

総会資料を見て、つくづく感じられたのですが、卒業回数が 47 回、卒業総数が 7,798 名となったことです。短大創立より、半世紀に手がとどくところにきています。母校及び鈴友会の発展は、表裏一体であると思います。それにはやはり、私達一人ひとりの思いが、重要視されてきます。どうか皆様の知恵を、力を、同窓会の充実をはかるために、おかしください。役員一同お待ちしております。

皆様のますますの健闘をお祈りいたします。



名誉会長

出雲 敏彦
(鈴鹿短期大学 学長)

「極点社会とは、人口が東京一極に集中する社会に名づけられている」。増田寛也編、『地方消滅』には日本特有の人口減少の構造を明らかにして、その生成のプロセスとリスクを説いています。アベノミクスによる日本経済再生は人口を与件とした短期の経済政策です。3 本目の矢は成長戦略を目指していますが、目下のところ良い経済指標は示していません。長期の課題に目を向けますと、産業政策、国土政策、雇用政策、社会保障政策等あらゆる政策は将来人口の行く末によって大きく左右されます。日本は 2008 年をピークに人口減少に転じ、これから本格的な人口減少社会に突入します。このまま何も手を打たなければ、2010 年に 126 百万人であった日本の総人口は、2050 年には 97 百万人となり、今世紀末の 2100 年には 50 百万人と、わずか 100 年足らずで現在の約 40%、明治時代の水準まで急減すると推計されています（人口問題研究所等の推計）。少子高齢化が進行して、慢性疾患のようにじわじわと忍び寄る少子化に危機感を募らせることも、認識を共有することもありませんでした。高齢者すら約 800 市区町村で減少し、「人口減少」という問題が姿を現すに至り、ようやくこの問題の深刻さに気づき始めたところです。根拠なき「楽観論」も「悲観論」も益とはならず、正確かつ冷静に認識する必要があります。三重県は 2040 年若年女性人口を根拠に「消滅可能性都市」として 8 つの町が挙げられます。そこで、人口社会減対策に三重県知事は本格的に取組み、経営戦略会議や高等教育機関の長との意見交換会を実施しています。合計特殊出生率の改善では短期の解決にはなりません。

鈴鹿短期大学は、大学との一体化を通して合理化を行い、こども学専攻の入学定員増、こども教育学専攻科の新設等の教学改革を行い、地産地消（地元学生を受入れ、地元就職）による東京一極集中とは違う魅力向上と差別化を行い、三重県の施策を踏襲して社会減防止に努めて参ります。

鈴鹿短期大学の近況

生活コミュニケーション学科長 川又 俊則

短期大学事務局長 渡辺 久孝

現役合格の快挙

三重県教員採用選考試験 養護教諭

本学専攻科2年生浦野早都紀さんが、平成27年度三重県教員採用選考試験養護教諭に見事合格しました。これは専攻科現役生として初の合格であり、競争倍率8.8倍の難関を見事に突破した快挙です。(詳細は本学HPを御覧ください)



浦野 早都紀さん(専攻科2年生)

さて、本学では、ほぼ1年を通じて授業以外に希望者を対象に、採用試験対策講座を開講しており、今年度は5月中旬から8月下旬まで直前対策講座を隔週土曜日、午前中は実技、午後は面接対応を中心に、短期大学生、専攻科学生などの現役生のみならず卒業生も多く参加しました。面接はとりわけ個人では対応ができない集団討論に時間を割きましたが、参加者は、回を追うごとにめざましい上達ぶりを発揮し、伊藤亜里紗さん(平成25年3月専攻科修了)は面接評価が9割近くの高得点を獲得し見事合格しました。

現在、講師をしながら挑戦している卒業生の皆さん、いつでもお問い合わせください。ご都合の良い日だけでも是非参加してください。教職員一同大歓迎です。なお、本年度は1次合格者数15名、2次合格者数5名と他県補欠合格者1名の結果でした。

進化するペットコース

生活コミュニケーションコース

短大の学科名称を「生活コミュニケーション学科」と変更して4年が経ちました。そのとき出発した「生活コミュニケーションコース」では、ペットを学んだ学生の卒業式を2回経験し、動物病院・動物園などに就職しました。櫻井・山越両先生の講義・演習に加え、今年から「トリミング演習」も始まり、トリマー志望学生のニーズに応えました。長期休暇には、名古屋港水族館・松阪食肉衛生検査所・三重県動物愛護管理センターなどでも研修をしています。



学校犬 すず

「学校犬すず」は9月から事務局にいて、教職員・学生のアイドル顕在です。オープンキャンパスや鈴短祭でも大活躍でした。今年から3,4期生たちは、先輩たちがしてきたことに加え、新たな活動をしています。数名ずつで毎週火曜日、動物愛護管理センターで仔犬のシャンプーなど譲渡を待つ犬猫のお世話などを手伝うボランティアです。生活コミュニケーション学研究所のミニシンポジウム「ペット動物の終生飼養について考える」で学んだことなど、それぞれの卒業研究などに活かす予定です。

来年度からは新コース名に変更し、より一層の充実をはかります。授業公開・公開講座などもありますから、ぜひ、ペットについて「学び直し」してみませんか？

活躍する卒業生

植村 靖子

滋賀県副支部長

昭和 47 年度卒 家政学科食物栄養専攻

「今日のごはん何」「〇〇おいしかったわ！またつくってな」と子どもたちが声をかけてきます。私は、児童養護施設で食事作りをしています。毎日の食事を通して自分の体の大切さや、おいしい料理を食べて得る満足感が、心の安定になります。卒園後自立した時、基本的な食生活ができるよう、支援することが大切です。毎年、梅干しやたくあんを漬けたり、地域の方から採れたての野菜をいただく事もあり、季節を感じる事ができます。おせちや節分など行事食を作り、食文化の伝承をする事も必要です。

短大を卒業して、永い年月が過ぎました。卒業後勤めた病院では、そろばんを使い栄養計算や原価計算をしていましたが、今や献立作成も含め、全てパソコン操作の時代になりました。元気に働き続けている事に感謝したいと思います。

最後になりましたが、短大で教えていただいた事（忘れてしまった事が多いですが）や資格を活かして働けることは、本当に良かったと感じています。

草津線、関西線乗り継ぎ通った2年間、はるか昔をなつかしく思い出します



上寫 克也

鈴友会役員書記

平成 19 年度卒 生活学科こども学専攻



短大を卒業して7年が経ちました。卒業して保育士1年目の頃を思い出すと、若かったなあと、なぜか笑えてきます。

保育士になって子どもたちとの園生活がスタートして7年、今では毎日園児たちと一緒に遊んだりご飯をたべたり生活することが自分の中で日常になっています。最近、戸外遊びで野球に没頭する子どもたちと一緒に汗を流しています。僕は保育士という仕事の魅力は、そういった日常を園児たちと送る事ができる事、そして日常の中で成長していく子どもたちをみることが出来る事、だと思っています。

保育士に必要なのは、子どもたちと一緒に生活や遊びを通して「共に学びあう」人です。“遊びは教育である”と謳われるように、子どもたちの「遊び」には、様々な教育要素が含まれ、知らず知らずのうちに子どもたちはその「遊び」から学んだ力を、生きる力にして育っていきます。保育士は子どもたちが遊び込める環境を用意したり、一緒に遊んだりする重要な人的環境の一つです。僕の今後の目標は、子どもと共に学び合いながら保育のプロとして成長していくことです。

石橋 千恵子

昭和 54 年度卒 家政学科家政専攻養護教諭コース

鈴鹿短大を卒業して早 35 年が経とうとしています。その間定時制高校、4 校の中学校に養護教諭として勤めてきましたが、家庭との両立や仕事のことで何度も悩みながら、多くの子どもたち教職員と家庭の支えがあって今も仕事を続けていることができています。現在は、三重県に近い滋賀県の中学校に勤めており、保健室では怪我や体調不良を訴えて来室する子どもたちや、様々な悩みを抱えて来室する子どもたちの声を大切に、一人ひとりの関わりを大事にしながら指導支援をしています。また、鈴鹿短大卒業生の方が近くの学校にも何人かおられ、仕事仲間として、とても親しくさせていただいております。級友たちとも時々出会い、近況報告をしながら学生時代に戻ったかのように、楽しい時間を過ごさせていただいています。休日はいろいろなことで忙しいのですが、時間があれば家の庭でガーデニングをしたり、週に1回生け花のお稽古に通い、季節の花を楽しんでいます。



勤めることができるのもあと数年になってきましたが、子どもたちからパワーをもらいながら、健康に気を付けて充実した日々を過ごしたいと思っています。

私は 48 年度栄養コースを卒業した者です。クラスメートは 15 名で、2 年間でしが若さにあふれていました。今ペンを走らせながら諸先生のお顔が浮かんでいます。お世話になりありがとうございました。いつもそばには山田芳子先生がいて下さり心強いかがりでした。

クラスメートに小林真弓さんがみえ、卒業後 OSK の一員になられ、芸名は東雲（しのめ）あきら。彼女とともに机を並べ、勉強したことが私達全員の誇りになっています。そして、彼女の素敵なショーを見るために大阪に集合し、これがかわきりに同窓会を時あるごとに開催するようになりました。全国各地に点在しているクラスメートが、ご当地集合で名所旧跡を案内し、2 年前は滋賀県近江八幡で井上万里子さんが担当でした。今年は坂本龍馬が駆け抜けた伏見御香宮神社→寺田屋→月桂冠大倉記念館というコースで、昼食に「月の蔵人京料理」という盛沢山なものになりました。鹿児島県から友田洋子さん、兵庫県から宮本悦子さん、滋賀県から井上万里子さん、京都から私。と、出席者は少ないものでしたが再会を喜び合いました。母校とのパイプ役は館淳子さんにお世話になり、2 年に 1 回の定例化となった各地での同窓女子会は、井上さんに幹事役を担っていただき、皆に連絡を取りどこで誰が出席してくださるのか、などの便宜をはからっていただいています。もう次回が楽しみになっています。

母校鈴友会の益々のご発展をお祈り申し上げます。



宮本さん 井上さん 友田さん 筆者

館 淳子

昭和 48 年度卒 家政学科食物栄養専攻



平成 26 年度の鈴友会総会に出席させていただきました。郡山キャンパスは初めてでしたが、若々しい男女の方が多く何と楽しい総会であったかと嬉しいばかりでした。庄野キャンパスで総会(平成 15 年 8 月)が行われた時、私達クラスメート 6 名が出席しました。その折、2～3 年間隔で同窓女子会をそれぞれの出身県で開催しようといくことになりました。短大を卒業してから 40 年が経っていますが、集うと今の生活や諸々のことを話し合い、楽しい 1 日を過ごしています。今年も京都での再会があったのですが、参加できずやむなく涙をのみました。すでに、次回を楽しみにしている昨今です。友との再会も楽しみですが、今回のような若さにあふれた、楽しい総会に参加できたことは良い経験でした。次回の鈴友会総会への参加も、同窓女子会同様に楽しみにしております。

私達は、昭和 44 年度食物栄養専攻を卒業しました。今回は総会とともに新しい支部長、副支部長に交代してから初めての滋賀県支部総会があるので、ぜひとも参加してほしいとの連絡が幹事さんからありました。

滋賀県支部に対して、私達クラスには少々思いがあります。というのは、今は県内からの通学生が多いかもしれませんが、草創期では他県からその中でも滋賀県出身者が多く、卒業してからではありませんが滋賀県支部が結成され、しかも支部長、副支部長には私達のクラスメートである、平尾さん、内山さん、顧問として私達の担任をしてくださった山田和子先生、というスタートでした、その後平成 22 年度の総会の折に役員が交代。4 年周期で総会が開催されるため、今回が新任役員としては初めてとなるわけです。友との再会も兼ね今回の総会参加になりました。ここで各自の近況を紹介したいと思います。

伊藤 愛子さん … 88 歳の母が入院中で、5 歳、7 歳、10 歳の孫の世話などで毎日忙しくしています。

伊藤 町代さん … 実父 (90 歳) は一人暮らしで、「お〜い」の返事にホッとして帰って来る毎日です。

内山えみ子さん … 退職後サークルやボランティア等をしています。県人会の友人達と時々食事に出かけたりゆったりとした時間を過ごしています。反面忙しい日々が懐かしい今日この頃です。

中村登美子さん … 東京在住の娘に二人目の孫が生まれ、その世話のために東京と鈴鹿を行ったり来たり忙しい毎日です。

増田 文子さん … 主人が、軽度ですみましたが、脳梗塞をわずらい見守りつつ、食にまつわるボランティアサークルにはいり、日々を楽しんでいます。

鈴友会・滋賀県支部の総会報告

平成 26 年

平成 26 年 9 月 6 日（土）に、鈴友会総会と茶話会が開催されました。総会では、出雲敏彦名誉会長から大学の現況についてのお話をいただきました。今回の総会は、昭和 47・48 年度、平成 11～15 年度、24・25 年度の卒業生を中心に呼びかけ、80 名近くの方々が参加してくださいました。茶話会では、恩師の皆様や久しぶりに会ったクラスメイトと近況報告しあうなど、にぎやかで楽しいひとときを過ごしました。



出雲名誉会長のご挨拶



増田会長の挨拶



総会に参加していただいた卒業生の皆さん



懐かしく笑談する会員の皆さん、和やかな茶話会

恩師とともに

審議事項では、①平成 24・25 年度事業報告 ②平成 24・25 年度会計報告 ③平成 24・25 年度監査報告 ④鈴友会役員改選 ⑤平成 26・27 年度事業計画、以上の各議案は拍手をもって承認されました。

次回の総会は平成 28 年に開催され、昭和 49・50 年度、平成 16～20 年度、26・27 年度卒業生を対象に呼びかけますので、お友だちとお誘い合わせのうえご参加ください。
（顧問 福永 峰子）

～ 総会に参加して ～



挨拶をする伊藤支部長

伊藤 裕美

滋賀県支部長

昭和 52 年度卒 家政学科家政専攻養護教諭コース

残暑が続く中、朝夕の風に秋の到来を感じる 9 月 6 日、先輩と
と一緒に郡山キャンパスへと車を走らせ、総会に参加させていただきました。

校舎内に入った時、数十年前の庄野キャンパスに似ていて、なつかしい雰囲気を感じました。

新設された学部、さまざまな行事や公開講座開催など、短大の近況を伺い、若い後輩たちが将来に
向け生き生きと学ぶ様子から、母校の存続と発展を嬉しく思いました。

大学で取得した資格や、学びをもとに全国各地で活躍する同窓生が沢山おられ、滋賀県支部でも、
現職で活躍中の方がみえます。鈴鹿短大の同窓生であるというご縁を大切に、ネットワークを広げて
いきたいと思いました。

事業及び会計報告

●事業報告（平成24年4月1日～平成26年3月31日）

平成24年度 役員会：4/26. 6/13. 7/3. 7/18. 8/21. 8/28 9/27. 10/30. 11/20. 12/13. 3/26 総会・ホームカミングデー：9/8 平成25年度 役員会：1/9. 2/26. 3/26	*総会 ○22・23年度会計・会計監査・事業報告○会報発行 ○役員選出 ○24・25年度事業計画案 ○享栄学園100周年記念事業への募金協力 *幹事会及び役員会 ○会報発行 ○役員改選
---	---

●会計報告書（単位:円）

平成24年度報告書(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金(普通預金) ^{※1}	1,441,594	印刷費	201,285
(定期預金)	2,917,375	消耗品費	55,622
終身会費(H24年度 卒業生)	705,000	通信費	445,820
利息 (普通預金)	264	人件費	54,500
(定期預金)	703	その他	50,000
		卒業記念品	67,000
		小 計	874,227
		次年度繰越金 ^{※2}	4,190,709
合 計	5,064,936	合 計	5,064,936

平成25年度報告書(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金(普通預金) ^{※1}	1,272,631	印刷費	9,870
(定期預金)	2,918,078	人件費	11,000
終身会費(H25年度 卒業生)	655,000	その他	21,149
利息 (普通預金)	244	卒業記念品	67,000
(定期預金)	582		
		小 計	109,019
		次年度繰越金 ^{※2}	4,737,516
合 計	4,846,535	合 計	4,846,535

※1 終身会費 (H23年度 卒業生) ￥680,000-含む

※2 終身会費 (H24年度 卒業生) ￥705,000-含む

※1 終身会費 (H24年度 卒業生) ￥705,000-含む

※2 終身会費 (H25年度 卒業生) ￥655,000-含む

上記の通り、ご報告させていただきます。

会計 元木 ひとみ 印

以上、監査するに事実相違ありません。

監査 渡辺 久 孝 印

新役員の紹介

本部役員

名誉会長	出雲 敏彦	(鈴鹿短期大学 学長)
会 長	増田 文子	(昭和44年度・食物栄養)
副会長	鎌田 美千代	(昭和56年度・養護教諭)
書記	永岡 宏行	(平成16年度・食物栄養)
	上寫 克也	(平成19年度・こども学)
会計	元木 ひとみ	(平成4年度・商経学科)
	大畑 陽子	(平成5年度・商経学科)
監事	渡辺 久孝	(鈴鹿短期大学 事務局長)
顧問	福永 峰子	(昭和53年度・食物栄養)
	岡野 節子	(昭和45年度・食物栄養)
	有竹 千鶴	(昭和61年度・商経学科)

滋賀県支部役員

支部長	伊藤 裕美	(昭和52年度・養護教諭)
副支部長	植村 靖子	(昭和47年度・食物栄養)



本部役員です。よろしくお願いいたします！

～ 卒業生の近況 ～

- ◆卒業後、老健に勤務し、結婚後は夜勤の勤務が難しくなり退社。その後はデイサービスにて8年勤務しましたが、妊娠出産のため退社。現在は、子育て中ですが、落ち着いたら介護の仕事をはじめてみたいと考えています。ブランクがあるので不安もあります。総会には友人に久しぶりに声をかけましたが、県外や市外で生活している人が多く、参加していただけなかったことが残念でした。(平成12年度生活学卒)
- ◆総会に参加するたびに学生時代にタイムスリップしており、嬉しいです。これからも都合のつく限り参加させていただきます。(昭和47年度 第3部卒)
- ◆50歳を目前に控え、元気に過ごせるのは後、何年だろうか。自分らしくイキイキと過ごせるのは、後何年だろうか。残りの人生、何ができるのか。日々自問自答をくり返しております。(昭和61年度商経卒)
- ◆キャンパスが郡山に移転したことで自宅から近く、一層身近になり嬉しいです。大学の公開講座にも参加させてもらい楽しいです。(昭和47年度 食物栄養卒)
- ◆卒業し20年が経ちました。現在も養護教諭として子ども達の成長を見守りながら、研鑽の日々を過ごしております。(昭和62年度 養護教諭卒)
- ◆卒業後、保育園の調理員をして13年目になります。(結婚・出産もあり・・・)今、職場では同じく調理員として働く人を募集しています(調理師または栄養士の免許が要ります)。子供たちはとても可愛く、「給食おいしかったよ～」と言ってくれるのでとてもやりがいのある仕事です。(平成13年度 食物栄養卒)
- ◆四日市のクリニックでチーフをしています。◆栄養士としてお弁当給食の現場で働きはじめました。幼稚園、小学校、会社など幅広い方々に食べていただいています。◆(株)ニチダンに就職、栄養士として働いています。調理では、粥や二次加工など大学で習ったことを応用しながら日々頑張っています。◆名古屋で栄養士として働いています。管理栄養士取得に向けて頑張ります。(平成25年度 食物栄養卒)
- ◆私立の保育園勤務で2年目を迎えています。1年目は乳児、2年目は幼児の加配として保育に当たり、様々な経験をつませていただいています。上手くいかないこと、トラブルなどありますが、良い職場にめぐまれ、日々楽しく仕事をしています。(平成24年度 こども学卒)
- ◆児童養護施設で保育士として働いています。◆結婚しました。幸せですよ！！(平成25年度こども学卒)
- ◆総会にはじめて参加させていただき、ありがとうございました。鈴鹿短大の歴史について再認識できました。もうすぐ50周年なりますね。記念事業は意味深いものにしていただけたらと願っております。卒業生の活躍を在学生への刺激にしていきたいものです。(特別会員 泉 正幸先生)

編集後記

- ・この度は、Bell Friend (No.5) の発行にあたり、ご執筆いただきました皆様方に心よりお礼申し上げます。
- ・Bell Friend 発行も回を重ね5号になりました。編集にあたり、毎号それなりに思い出はありますが、今回ほど役員と、同窓生のつながり、距離感が、たぐりよせられ、強固になったという達成感が得られたことはありませんでした。卒業生全員で作上げた、会報誌になったと思います。ありがとうございました。
- ・鈴鹿短期大学ホームページでは同窓会関連のイベントなどたくさんの情報を掲載しています。クラス会報告、近況報告等も、下記アドレスから見るができますので、ぜひご覧ください。

* 同窓会のホームページ * HP:<http://www.suzuka-jc.ac.jp/> (鈴鹿短期大学 HP 内)